

保護司とはどんな存在か

可児市立東明小学校 6年

神谷 莉杷

「保護司って知っていますか。」

授業の始まりに担任の先生が聞きました。私はその意味を知らなかったので、何を保護するのだろうと思いました。続けて先生が動画を観せてくれました。保護司の千葉さんが犯罪を犯した人の社会復帰を支援する様子や、だれでもやり直しができる社会をめざしたいという想いが伝わる動画でした。

私はこの動画を観て、保護司について調べてみて、わかったことがあります。

まず、犯罪を犯すと失うものが多いということです。信用、居場所、仕事、お金。社会でこ立し、元通りの生活に戻るのはとても難しくなります。その様な状況に耐えきれず、再び犯罪を犯したり、命を絶ってしまうこともあるそうです。千葉さんは、そういった人を少しでも減らしたいと活動を続けています。

わたしが今困っていたら、ぎゅっと抱きしめてくれる両親がいます。そっと手を差し伸べてくれる友だちがいます。真剣に話を聞いてくれる先生がいます。私は周りの人たちに支えられて生活できていると感じています。犯罪を犯して刑務所から出てきた人に、身近で支えてくれる人はいるのだろうか。そもそも犯罪を犯す前までも、そういった人はいたのだろうか。千葉さんのような保護司の存在が、きっと大きな支えになっていると思いました。

驚いたことがありました。保護司というのは、実質的にボランティアで給料は支払われないということです。それでも全国各地で活動する保護司がいるというのは、それだけ多くの人が犯罪のない明るい社会づくりを考えているのだと思います。

私にもできることを考えてみました。学校には様々なルールがあります。その意味を深く気にした事はなかったけど、学校のルールを守ることは将来社会に出た時に、決まりを守る事が当たり前になるようにする為の準備なのだと思います。仲間と安全で楽しく学校生活を送るために、これからもルールを守ってすごしたいです。

それから、人とのつながりを大切にしたいと思います。毎朝、分団の集合場所に行く途中に声をかけてくれる方がいます。

「おはよう。今日も元気にいってらっしゃい。」

「暑いね。気をつけて行くんだよ。」

そんな一言が、重たいランドセルを背負った私の背中を、ポンッとおしてくれます。雨の日も雪の日も分団について来て、一緒に歩いてくれる方がいます。私たちが安全に登校できるように、一年生の時から見守ってくれています。通学路の途中の横断歩道には、サポーターの方が立ってくれています。私たちが通るずっと前から立って待っていてくれて、全員が通るのを確かめるまで立ち続けてくれています。改めて、私たちは地域の方々に支えられ、見守られている事に気づかされます。

明日はいつもより少しだけ大きな声で、感謝の気持ちをこめて

「おはようございます。」

と言いたいです。